

令和4年10月4日

カンボジアの学生が福井県嶺北地域の課題解決に挑む ～福井大学の学生と地域創生のための共同研究を目指す～

福井大学国際地域学部は10月2日(日)～10月16日(日)、カンボジア国立経営大学(NUM)国際学部の学生10名と教員1名を招き、福井県嶺北地域の「地域創生」の取り組みについて研究調査を行います。本学国際地域学部とカンボジア国立経営大学は「課題探求プロジェクト(PBL)※1」という近年注目されている教育プログラムを実施しており、2019年に学術交流協定を締結しました。今回交流を行うNUM国際学部はカンボジアにおいて地域コミュニティ発展のために活発に活動しており、その取り組みは国際的にも高く評価されています。

今回の研修プログラムでカンボジアの学生たちは、日本における地域創生の取り組みについて座学で学ぶだけではなく、フィールドワーク、地元企業及び教育機関訪問、関係者インタビュー、ディスカッションなどを通して、必要な情報を収集します。収集した情報をもとに課題解決のための仮説を立て、本学の学生とともに具体的なアクションに向けた提案・考察を行います。調査結果の発表では、カンボジアが抱える問題との共通点や相違点を分析し、今後の共同研究のためのテーマを探ります。

報道機関の皆様には、当日の取材にご協力いただけますようお願いいたします。

記

報道公開 10月14日(金) 13:30～ アカデミーホール集会室(文京キャンパス)
(開始時刻の15分程度前から入場いただけます)
内容: 研究調査結果のポスター発表
学生、教員との意見交換会、交流

本活動は科学技術振興機構(JST)主催の「国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」※2に採択されたものです。本活動を契機として、本格的な共同研究を推進していくことや、短期留学プログラムの体制を整えることも目指します。また、本学の学生のグローバルな視点を涵養し、留学への意識を高めることも期待できます。

※1 PBL(Project-Based Learning): 地域の企業や自治体と連携し、現実の社会にある課題を学生たちが主体的に取り組み、解決法を探る実践的な問題解決型学習

※2 「国際青少年サイエンス 交流事業(さくらサイエンスプログラム)」
科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費をJSTが支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



【問い合わせ先】

- ・ 本件について
国際地域学部 担当教員: クリストファー ヘネシー
福井大学広報センター
- ・ 国際青少年サイエンス交流事業について
JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
担当: 田中(禎)、太田